中央小が団体・個人の部で最優秀賞 5/16

昨年の本川根小に続く快挙達成！

第48回交通安全子供自転車島田地区大会が島田市で開催され、団体の部で中央小学校が、個人の部では同６年の大森彩さんがそれぞれ最優秀賞の栄冠を手にし、同６年河畑真央さんが優秀賞に輝きました。最優秀賞の獲得は、昨年の本川根小に続く快挙となり、島田地区代表として６月13日に開催される県大会へ出場します。

本大会は自転車運転の模範となる「サイクリストリーダー」を養成する目的で開催され、島田警察署管内の11校12チーム、60人が出場し、学科と実技テストで競い合いました。

参加した中央小学校と関係者の皆さん（全体写真）

6/1 「大きくな～れ」と願いを込めて

エコパークの玄関口として川をきれいにしようと呼び掛ける

川にそっと放して、元気に泳ぎ出す様子を見守る児童

新大井川漁協本川根支部は、環境保全の意識啓発と川を正しく恐れて遊ぶための注意喚起を目的に、本川根小学校全児童によるアマゴ放流を行いました。小学校近くの大井川に放流したのは、体長３～５㌢ほどのアマゴの稚魚約１千匹。本川根支部長の岡本優さんは「放流を通じて、生き物を大切にする心を育んでもらえたらうれしい」と話し、６年の不二山颯人くんは「ゴミのないきれいな川で、大きく育って欲しい」と漁協関係者に感謝しました。同支部は、６月５日にも桜保育園児を対象に実施しました。

川根高校のあいさつの輪を広める 6/10

県教委指定「規範意識向上のための地域の子ども連携研究事業」の一環

川根高校生徒が母校である中川根中学校で、登校生徒に大きな声で元気よくあいさつ運動を展開しました。参加したのは川根高校生徒会評議員の３年澤口初音さん、２年松下誠吾さん、１年前田花帆さんの３人。川根地区３校は連携型中高一貫教育の連携校で、あいさつ運動は中学生に規範意識を高めてもらおうと昨年に続いての実施。澤口初音さんは「中学生に川根高校のあいさつの良さを伝えることで、地域で実践して広めてもらえたらうれしい」と笑顔で話しました。同日、本川根中学校でも実施されました。

母校を訪れ、後輩たちとあいさつを交わす川高生

お茶の淹れ方、プロに学ぶ 5/26

若い世代にお茶を楽しんでもらいたいと茶振協が協力

県立川根高等学校の１年生48人は、５月７日に自ら摘採し、製茶された新茶を使ってお茶実習を行いました。芦沢哲哉さんと土屋裕子さんをはじめ、日本茶インストラクターの皆さんが指導に当たり、「生産」に関する座学と、「淹れ方とマナー」の実践を学びました。

生徒らは３人１組で、１煎目は約70℃のお湯で90秒待ち、最後の一滴まで残さずに同じ濃さ、味、量になるように交互にお茶わんに淹れるよう手ほどきを受け、３煎までを楽しみました。同校学園祭で呈茶し、実習の成果を確かめます。

おいしいお茶の淹れ方を学び、実践した

6/10 水難事故ゼロを目指して

より実戦的に降雨後の急流で水難救助訓練

実戦さながらに対岸から要救助者を救助する訓練を実施

水難事故が多発する行楽期を前に、町内を管轄する島田市消防本部金谷消防署川根北分遣所は、元藤川の大井川で水難救助訓練を実施しました。訓練には職員12人が参加し、訓練日は降雨後で河川流量が多く急流でしたが、実際の事故を想定して救助訓練を行いました。

訓練は水難事故に関する知識と技術向上、連携確認を目的に実施され、訓練を見守った大橋署長は、「緊急時の備えと判断を養うために実戦訓練は大変有意義。水難事故ゼロを目指し、川遊びのマナーも啓発したい」と呼び掛けました。

中川根中が「小さな親切」実行章を受章 5/8

生徒会実施の「あすなろ活動」、今年度は社会福祉協議会授産所「みどりの丘」に法被を寄贈

中川根中学校生徒会が第619回「小さな親切」実行章を受章し、主催者の「小さな親切」運動静岡県本部から表彰状が贈呈されました。

同校生徒会では、毎週水曜日の朝に牛乳パックとアルミ缶を回収し換金して町内福祉施設から要望のあった品物を寄贈する「あすなろ活動」に取り組んでいます。活動の中心である福祉委員会の瀧尾かのこ委員長（３年）と澤口一輝副委員長（同）は「継続してやってこられて良かった」「朝が早いのは大変だけど、活動が評価されてうれしい」と笑顔で話しました。

受章のよろこびを分かち合う中川根中学校の福祉委員